

宮崎県防衛協会青年部会宮崎支部の皆様、明けましておめでとうございます。令和5年の輝かしい新年を、ご家族お揃いでお迎えの事と重ねてお慶びを申し上げます。

早速ですが、先月の支部長通信に同封致しました宮崎支部総会案内状を今月も再送しますので、出欠未回答の方はお早めにお返事をご提出頂ければ幸いです。

尚、支部総会は2月17日金曜日の18時半からアートホテルスカイタワーを予定していますので、3年振りとなりますが、皆様の元気なお姿と再会致したく存じます。

さて先月の自衛隊関連行事は何と言っても4日に開催された新田原エアーフェスタで、こちらも3年振りの開催でした。生憎の空模様の上、当初からブルーインパルス展示飛行予定は有りませんでした、それでも小雨の中、沢山の観客で大変賑わっていました。

5空団司令の尾山空将補も先月23日付で市ヶ谷の空幕へご栄転なされ、コロナ禍最中のため宮崎支部総会には一度もご出席頂けませんでした、後任の藤永司令には是非ともご臨席を賜り、皆様と杯を酌み交わし乍ら親交を深めて頂くようお願いするつもりです。

また10日土曜はグランドヒル市ヶ谷での32連隊会に参加して、嘗ての戦友達と旧交を温めて来ましたが、最高齢の元第1中隊長は何と94才で矍鑠としておられました。

ところで昨年2月にロシアがウクライナ侵攻を開始して早一年経過し双方停戦の気配は全く見えませんが、冬将軍の到来で双方の兵士は寒い塹壕の中でのクリスマスや新年を迎えねばならず、現場でその辛さの一端を知る者の一人としては誠に同情を禁じ得ません。

宇露戦争のお陰と云ってはウクライナ国民から顰蹙を買いそうですが、岸田総理は反撃能力保有等の安保関連3文書を閣議決定した上で5年間に42兆円の防衛予算を計上して、米国から巡航ミサイルトマホーク等を購入するとの重大な決断をされたようです。

これまでの日本なら国会前で「岸田死ね」等のプラカードを掲げてのデモ行進が頻発し、国論を二分するような大騒動になったのですが、増税に話が及んでもそれほど反対の声が聞こえないのは、凶暴なロシアにミサイルフェチの北朝鮮、我田引水を恥じぬ中国等隣国の現状等を学習した日本国民が、改めて国防の大切さに気付かせられたからでしょう。

しかし歴史に学ばぬ人間の愚かさは時間の経過と共に痛みを忘れる事らしく、従い長い歴史の中で幾度も幾度も戦争を繰り返し、日本の「一国平和主義」など国際社会では机上の空論に過ぎぬと云う事実を痛感させられた一年でもあり、改めて自らの国は自らの手で、そして智恵と汗とで、また必要とあらば血を流す覚悟で守らねばと決意した正月でした。

令和5年1月1日  
宮崎県防衛協会青年部会 宮崎支部長 小倉和彦